

第1回徳島県周産期医療協議会 議事録

1 日時

令和7年7月29日(火) 午後7時から午後8時10分まで

2 会場

オンライン開催

3 出席者

(1) 委員(16名)【五十音順・敬称略】

岩佐 武(会長)、漆原 真樹、加地 剛、岸 揚子、近藤 秀治、斎藤 誠一郎、
佐藤 純子、中川 竜二、西村 正人、別宮 史朗、森脇 智秋、山田 祥子、
山本 哲史、横山 敦子、渡辺 浩良、柳澤 延昭(代理：正瑞達夫)

(2) 事務局等

鎌村医務技監、健康寿命推進課、消防保安課、子育て応援課、医療政策課、
救急・災害医療対策室、病院局、各保健所等

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事1 周産期医療協議会各専門部会からの報告

議事2 その他

(3) 閉会

5 議事の概要

議事1 周産期医療協議会各専門部会からの報告

(1) 母子保健専門部会報告 【資料4】

- ・窒息予防リーフレットの改訂→配布予定。
- ・窒息予防について周知するため、研修会を実施予定。
- ・RSウイルスについても情報提供していく。

徳島大学 岩佐会長

妊産婦(褥婦)さんに、漠然と流されないようにするため、具体的な事例を掲載することはできないか。具体的な事例が伝わることで、より対策をしていただけるのではないかと。

徳島大学 加地委員

持っているデータを抽象化して、具体的に妊産婦（褥婦）さんに伝わるように考えていきたい。徳島県で毎年一人、二人亡くなっているということ自体を知らない方もいると思う。医療機関などにも周知をして、伝えていってもらうよう働きかけをしたい。

徳島大学 中川委員

周産期医療協議会でベイフォータス（ニルセビマブ）の投与を季節に関係なく低月齢を重点的に投与していく方針が決まったことで、現場ではうまく運用できている。

今年も、ベイフォータスを季節に関係なく投与するという方針を母子保健部会で検討し、2026 年の方針として協議会にお諮りしたいと考えている。

聞いたところによると、鳴門市では全乳児を対象に抗体製剤の接種の一部補助が実現できそうなので、そのような動きが他の市町村にもつながればいいと考えている。

鎌村医務技監

抗体製剤の接種費用の補助について、鳴門市では希望者に接種費用の一部補助が始まると聞いている。国の検討会では、定期接種化に向けて検討中と聞いており、県としても国の動向を注視している。

また、県産婦人科医会と小児科医会が共同で検討をされていると聞いている。

徳島大学 中川委員

ベイフォータスの価格は、新生児を対象としたもので今は高額となっているが、市町村などが個別で製薬会社と交渉すれば、別の値段体系での薬剤の供給が可能と聞いている。

今後いろいろ変動があるかと思うので、田口小児科医会会長と意見をすり合わせながら、協議会でもご検討いただきたい。

（２）災害対策部会報告

【資料５】

- ・ 周産期災害対策マニュアルの改訂→R 8， ３月策定予定
- ・ 訓練への参加や研修会の開催
- ・ 共通診療ノート・防災ノートの改訂

徳島大学 岩佐会長

枠組みがしっかりできたので、次はスタッフや患者さんへの周知についても考える必要があると思う。実際に被災した際には、スタッフが集まるかということと、患者さんがどうしたら連絡できるかが重要である。

診療所とか病院は、被災した際に稼働できるかについて普段から相談しておく必要があると思うが、状況はどうか。

徳島赤十字病院 別宮委員

私たちの病院は、被災した際は一番状況がひどいのではないかと考えており、医師・師長とは相談したことがある。また、阿南医療センターとは適宜連絡を取り合いながら対応していく必要があると思い、病院同士で話したいと考えている。

患者さんがどこにどのように連絡すればよいのか、また、当院の分娩の可否に関する情報提供についても考えていく必要があると考えている。

鎌村医務技監

共通診療ノートには、かかりつけ医に連絡がとれない時の緊急時の問い合わせ先（災害拠点病院）が記載されている。避難所に行かれた後の、医療機関への連絡についても市町村へ周知をしていく。

（３）妊産婦メンタルケア部会報告 【資料６】

- ・ガイドラインの改訂
- ・眠剤等内服時の添い寝の危険性等について周知

助産師会 森脇委員

「助産施設」の記載について、児童福祉法の助産施設というイメージが強いので、「助産所」にしてはどうかという意見が助産師会で出ている。

健康寿命推進課

事務局としては「助産所」と記載に変更した方が分かりやすいと考える。

徳島大学 岩佐会長

訪問看護等の事業所もメンタルヘルスに不安がある方のケアにはいっているところがあるのか。

助産師会 森脇委員

メンタルに不安を抱える方へ訪問看護事業所が連携して支援に入っているケースも多い。

徳島大学 中川委員

エジンバラが高い人がその後どうなったかの振り返りなどをメンタル部会で考え

ていったらどうか。

徳島赤十字病院 別宮委員

エンジンバラが高値であった方の割合やその後の支援の状況・結果について、今後ま
とめていきたいと考えているが具体的な方法はこれからである。

議事２ その他

（１）令和６年人口動態統計（概数）について（事務局）

徳島大学 中川委員

全国の合計特殊出生率がこんなに減っているのは、どこが原因か。

健康寿命推進課

一番順位が低いのが東京で０．９６。二位が宮城で１．００となっている。

（２）ＲＳウイルスの周知・啓発、ワクチンの公費補助について

県医師会 斎藤委員

ワクチン接種は市町村が実施主体であるが、県の周知・啓発や公費補助の動きはど
うなっているか。

鎌村医務技監

現状としては、鳴門市で乳児の抗体の接種について補助が始まると聞いているが、
妊婦さんへの接種については、県内では補助が始まっていないと認識している。

県医師会 斎藤委員

ＲＳウイルスのリーフレットについて、妊娠中の接種に関する一文はあるのか。

健康寿命推進課

現在のリーフレットには、妊婦さんに対する記載はない。

県医師会 斎藤委員

アブリスボ（組換えＲＳウイルスワクチン）について、我々も周知徹底をしている
が、最近希望者が頭打ちである。リーフレットに一文入れることを検討してほしい。

鎌村医務技監

周産期医療協議会としての方向性を示すことはできるか。

徳島大学 加地委員

学会で推奨することは間違いないが、県として推奨することが適当かどうか悩ましいのではないかと思います。推奨ではなく情報提供という形であれば問題ないか。

鎌村医務技監

現時点では、定期接種とはなっておらず、医療機関で勧めて同意の上で接種するという段階だと思うので、内容については協議会での検討を踏まえて検討させていただきたい。

徳島大学 加地委員

医師会で資料を作成して、各病院やセミオープン施設の施設に配布することはできないか。

県医師会 斎藤委員

確かに医師会で作成する方が早いと思うが、このリーフレットの中にも入れていただきたい。

徳島大学 中川委員

ベイフォータスとアブリスボの効果の違いや、公費負担の流れを見極めて、県としての方針を考えていってはどうか。

県医師会 斎藤委員

了承。